

ノンネイティブ・クリエイティブ：インタビュー  
デービッド・エリオットジョーンズ  
(ビデオの通り)

アリーシャ

今回の「ノンネイティブ・クリエイティブ」では、デービッド・エリオットジョーンズと話しています。彼はオーストラリア出身の映像製作者で、プロデューサーでもあります。この度、彼の"Big in Japan"というドキュメンタリー作品のプレミアイベントのため来日し、東京に来ています。

デービッド

現在の文化、というか現在の西洋文化では今まで見たことない程度で「有名であること」が評価されています。その状況に対して、私たちが知りたかったのは「有名であること」がいいか悪いか。そんなに大したことか？

アリーシャ

映像製作を始めるきっかけは？

デービッド

大学でジャーナリズムを勉強していた。僕と友達2人が大学を卒業して、ジャーナリズムの仕事経験があったけど、これからの業界状況に不安を感じた。だから一緒にお金を集めて安いカメラを買いました。

オーストラリアで勉強中の留学生の話をフォローしていた。彼らはオーストラリアで色々な困りがあって、その話はソースから調査すると決めた。それは私たちの初めてのドキュメンタリーになりました。インド人の学生にどういう風にオーストラリアが宣伝されているかを理解するため、インドに行った。

そのドキュメンタリーでお金を頂けました。そのおかげで、自分の機材を買えて、製作会社も立ち上げました。そこから今は初めてのフィーチャードキュメンタリーの公開。

(ビッグ・イン・ジャパンからの映像)

ラーキ：デーブです。26歳。才能ない。ミッションはこの子を有名にさせること。簡単じゃない。

デービッド：ちゃんとシステムを作らなきゃ。そうしないと「変な男達がやつをネットで有名にさせる」になっちゃうよ。スート続けて行っちゃうよ。あの、、

ラーキ：ルイスと僕はいいこと考えたかも。

ルイス：日本に引っ越すことはどう？

デービッド：いいよ。

ラーキ：では、今日の打ち合わせは「どうやってあなたを有名にさせる」についてです、デービッド。体系的なアプローチは必要です。最初の3つは一般の有名になる方法です。なにかを達成する。なんか、何かを発明する。病気を治すとか。いや、それはしないよね、あなた。

デービッド：じゃ、それは違う。

ラーキ：一番得意であること！何かの一番得意人でしょうか？

デービッド：あの、、、

ラーキ：はい、ダメだね。

ラーキ：じゃ、才能持っています？

デービッド：いや、それは主要でしょう？僕は才能全くないね。

ラーキ：そうね、主要だね。じゃ、この3つはだめだよね。

デービッド：実用的に考えないといけないと思う。使えるツールは何？プラットフォームは？どうやってファンを増やすか？

ラーキ：はい、次はたぶん有名になるまでの一番早い方法と思う。一番効果的な方法ですし、やらないといけないことはそんなにない。急速に広まる。

デービッド：結局私たちは「ミスター・ジョーンズ」という変な、ワイルドな僕を考え出した。日本市場向け。

日本のポップカルチャーにインスパイアされて、ジョーンズのフランチャイズの内には鼻血が出やすい強迫な観光客、ミキサで作ったものをなんでも食べる大根。

しかし、一番変なキャラクターは日本のお米とノリで作られるおにぎりにインスパイアされて、日本の一番変なスーパーヒーロを作った：オニギリ・マン。

デービッド：あ、いやだ、

(映像終わり)

アリーシャ

ここ東京で撮影したとき、そして映画の方々の話をフォローしながら、周りの人からの反応はどんな感じでしたか。

デービッド

ビッグ・イン・ジャパンを知ったらたぶん分かると思うんだけど、かなり際どいのシーンはある。

アリーシャ

そう。

デービッド

大衆はほぼ皆面白そうな顔をしていた。

アリーシャ

具体的に、自分のキャラクターに？

デービッド

そう、僕のキャラクタ、、、人前に出ること。

アリーシャ

映画を見た人と会ったら、「デービッド・エリオットジョーンズ、映像製作者」と「オニギリ・マン」の違いが分からない人がある？

デービッド

うん、僕のことをよく知らない人は時々その違いが分からない。それか、その変な、ワイルドなキャラクタと思われちゃう。

だけど、大事にしている人（友達、家族）はもう僕のことをよく知っているから、そういう意味であんまり自分の評判に関しての心配はない。結構ユニークな方法で面白いことを調べたからのだ。

私たちの場面から見ると、その方法しかないと思う。そうしないと普通の「レクチャー」になっちゃいますよ。本当の「経験」にならない。

そうすると全く別のドキュメンタリーになる。色んな人をフォローして、そこから「有名であること」を判断する。ありえない。古いドキュメンタリー制作方法です。

アリーシャ

そういうことは面白いと思います。ますます人々が YouTube と SNS とかの無料プラットフォームを使っているし、自分の「キャラクター」を作るのは簡単、基本的に。

## デービッド

たしかに。

## アリーシャ

そしてキャラクターと本質の違いが分かりにくくなる。そのキャラクターと「何かを作りたい人」の違い。

## デービッド

え、結構面白いよね。例えば、フェースブックでいつも同じようにコメントを書けば、たくさん「いいね！」をもらって、その行動が強化される。で、思わず「いつもこういうようなコメントを書く人」になっちゃう。固定観念を持たれる。

私たちの性格がプラットフォームに影響される恐れがあり、本物でない生き方の恐れもあります。それは有害です。

しかし、その一方で、SNSは素晴らしい。素晴らしいコネクションを作るツールです。

*(ビッグ・イン・ジャパンの東京プレミアイベントからの映像)*

デービッド：デービッド・エリオットジョーンズです。ビッグ・イン・ジャパンのプロデューサー、プレゼンター、そして今回の事件の効果を試される人です。この映画で名声を理解するために僕が色々やりました。

4年間かかって、これは一番最初の上映なので、僕は凄く楽しみにしています。

*(映像終わり)*

アリーシャ

何かを達成したいことがありました？「有名であること」を調査したかったですね、今までの話。とくに現在の世界、現在の時代で、SNSは普通に使われているし、色んな面白いキャラクターもいるし（とくに日本では）。外国人のキャラクターというか、日本人じゃない方がその「有名になること」を追いかけているのですが、固定観念を持たれる場合もあるかもしれない。

今回の映像では、何かを達成したかったや、もっと知りたかったことはありましたか。

デービッド

はい。映像の2番目の目標は「名声」をもっと理解することでした。「いや、名声はダメだ」と言いたくなかった。あたりまえですが、ダメじゃないよね。凄く楽しい部分もありますよね。

一般人の僕の「有名になる」ストーリーで、名声のいいこと、悪いことを経験できました。

そして、色んな「名声」の段階の方3人は映像に出ます。1人は昔から有名人です。1人はちょうど今有名になっている。そして一人は始まったばかり。

アリーシャ

映像を見たいなら、どこから見られますか？

デービッド

ウェブサイトに行ってください。Biginjapandoc.com. そこにいて、登録してください。それは一番いい。

アリーシャ

今回のデービッド・エリオットジョーンズさんと話した「ノンネイティブ・クリエイティブ」を見てくださってありがとうございました！是非、かれの映像「ビッグ・イン・ジャパン」を見てください！御覧いただきありがとうございました。また次回！

デービッド

ありがとう！

モデレータ

結局「名声」に関しての結論はありましたか？

デービッド

ますます「名声」を理解することが難しくなっていると思います。ある意味で、SNS で人気がある方もすこし有名です。